

風紋

vol.59 2018 / Autumn

鳥取大学広報誌 FU-MON



特集

在学生がキャンパスをご紹介!

鳥大生の一日常

社会
貢献

地域産品の農作業に目を向け、
機械化による作業能率アップを支援

話題の
研究室

医学部医学科社会医学講座
法医学分野

トリカッ!

日本一の技術と強さ、鳥大ブリコンチーム!

学びを
支える

教育支援・国際交流推進機構
国際交流センター

新任教員
紹介

地域価値創造研究教育機構 地域連携PBL推進室
乾燥地研究センター



アクアスポーツでライセンス取得に挑戦!

講義紹介
全学共通教育

教養と人間力に磨きをかける

社会人になるまでに身に付けておきたい基本的な教養をすべての学生が履修。鳥取県ならではの授業もあります。

- 地域スポーツ支援プログラム・アクアスポーツ
- 地球科学(ジオパークと自然災害・防災の基礎)

岩美町の海岸へ出かけてスキューバダイビングの海洋実習を行います。青く澄んだ日本海とかわいい魚たちに感動!

山陰海岸ジオパークの成り立ちや地球規模の自然現象などを学びます。気象台、自然館、天文台等学外からも講師が。

- 地球環境問題
- 哲学・倫理学

地球温暖化、環境汚染など世界規模の環境問題について考えます。授業はすべて英語。プレゼンや討論も行います。

哲学や倫理学の問題を自分の頭で考え、表現し討論することで深めていきます。毎回テーマが変わるのも面白いところ。



どんどん
いってまーす!

Check Point
1

朝の過ごし方イロイロ

登校したら、まずは掲示板で時間変更や休講等のお知らせをチェック! 授業前から開店している第1食堂「マーレ」やベーカリーカフェ「セルリア」で朝食をとる学生もいます。



にしむら
西村 ひかる 農学部 生物資源環境学科 4年

講義開始!



8:40 (米子)
8:45 (鳥取)

講義紹介
地域学部

ゲスト講師のお話
毎回引き込まれます



地域学総説

単に地域創生の在り方を考えるものではなく、自分はこの地域の中でどう生きていくのか、どう生きたいのか、そういった根本の問いについて考えさせられる授業。面白いのは、実際に地域で活動しているゲスト講師の方からさまざまなことを学び、地域学について共に考える機会があること。それが次の学びへとつながっています。

たなか とむみ
田中 巴深 地域学部 地域政策学科 3年

運が良ければ「幻のクリームパン」に出会えるかも!?

朝のキャンパスは自転車ラッシュ!!



登校!



8:30

在学生がキャンパスをご紹介!

特集

鳥大生の一日
TORIDAI CAMPUS LIFE

鳥取キャンパス	
1限	8:45~10:15
2限	10:30~12:00
昼休憩	
3限	13:00~14:30
4限	14:45~16:15
5限	16:30~18:00
米子キャンパス	
1限	8:40~10:10
2限	10:30~12:00
昼休憩	
3限	13:00~14:30
4限	14:50~16:20
5限	16:40~18:10

受験シーズンが近づいてきました。高校生の皆さんは「鳥大のキャンパスってどんな感じ?」「大学生になったらどんな生活になるの?」等々、将来を思い浮かべながら受験勉強に励んでいるのではないのでしょうか。

そこで今回は在学生がキャンパスライフをご紹介、未来の後輩たちへエールを送ります!

まつもと たくみ
松本 拓己 農学部 生命環境農学科 1年

よしだ ゆきの
吉田 雪乃 医学部 生命科学科 1年

ひろえ けんすけ
廣江 建輔 工学部 電気情報系学科 2年

こばやし はるな
小林 遥南 地域学部 地域文化学科 3年

行ってまーす!



鳥取大学イメージキャラクター
とりりん



Check Point
2

学内で本格的な舞台芸術が楽しめる!

地域学部附属芸術文化センターには、照明・音響設備が整った小ホール「アートプラザ」があります。授業はもちろん、音楽、ダンス、映画、演劇など一般向けのアートイベントも盛んに行われています。



いすを並べれば約80名収容可能!



アートプラザ



はらだ たくや
原田 拓弥 地域学部 地域学科 地域創造コース 1年

Check Point

5

自習室が豊富!

各学部ごとに自習室が設けられていて、空きコマなどに気軽に利用できます。定期試験前で図書館が混んでいるときも便利。

地域学部



工学部



医学部



農学部



家だと集中できない人にオススメ!

ひび けいしん 日比 慧慎さん 持続性社会創生科学研究科 工学専攻 1年

空きコマも上手に活用



Check Point

4

留学情報収集は昼休みが吉

留学に興味のある学生に向けて、国際交流センターが「Lunch Time World Cafe」を開催しています。留学経験者の生の声は貴重。また「語学強化コース」も開かれており、留学前に語学力アップを図ることができます。



語学強化コース修了式の様子



Lunch Time World Cafe

先輩の留学体験談は参考になりますよ

おぬき かなな 小貫 栞奈さん 医学部 保健学科 1年



午後13:00の講義開始!



13:00

Check Point

3

医学部生のお気に入りスポット

米子キャンパスの総合教育棟2階には開放的な休憩スペースが。空きコマにゆっくりしたり、ランチを食べたりできます。屋外には東屋のある緑の広場があり、ここでのお花見や親睦会を開いたりもするんですよ。

「飛鳥の森」はBBQもできる憩いの広場



飛鳥(ひちょう)の森



総合教育棟2階 休憩スペース

すとう みゆ 周藤 実結さん 医学部 保健学科 4年



昼12:00の休憩



12:00

医学部の講義いろいろ

実習では講義とは違った緊張感があります

生命科学科



医学科



保健学科(検査技術科学専攻)



保健学科(看護学専攻)



実践的な実習が豊富!

医療の現場では、座学で培った知識を実践の場で活かせるかどうかが大変重要。さまざまな実習に真剣に取り組んでいます。

お昼までもうひと働き!



Check Point

6

鳥大産の新鮮な農作物はいかが?

トマト、キュウリ、サツマイモ、梨、ブドウなど農業実習で栽培・収穫された作物たちは、毎週火・木曜日の昼休憩、広報センター前で販売されています。地元の人も買いに来られる人気ぶり。売り切れ御免なのです!



収穫は大変だけど喜んでもらえるのがすごくうれしい!



きむら なおか 木村 直佳さん 農学部 生命環境農学科 2年

キャンパス内に広大な圃場があるのは鳥大ならでは!



農業基礎演習

実際の農作業を通じて、授業で学んだ農業の知識を高めます。鳥取県の特産品であるラッキョウや二十世紀梨など、毎週さまざまな作物の圃場管理を実施。大雨や台風、雑草との闘いに苦労しますが、いい農作物ができると達成感があり、座学では分からないことを五感を使って学べる「百聞は一見にしかず」な授業です。

たかさぎ ひなこ 高杉 日菜子 農学部 生命環境農学科 2年

講義紹介 農学部

Lunch Time



鳥大生のランチタイム事情



ごはんやおかずを自由に組み合わせると栄養満点!



お家でひとやすみ



一旦帰宅する学生も

ほとんどが自転車10分圏内に暮らす鳥大生。「お昼は部屋で」という「自宅派」の学生も意外と多い。

ミーラー、多数出現!?

「ミーラー」とは食事専用電子マネー「ミールカード」利用者のこと。混雑時でも支払いラクラク!

外ランチでリフレッシュ!

食堂のテラス席は周囲の景色が楽しくて爽快! キャンパス内のベンチも人気のランチスポット。



鳥取キャンパス マーレ



「セルリア」のパンやパスタも美味しいよ!



サラダバーもあります!

常連さんを「マーレ民」と呼んでいます



他にもあります! /

鳥取大学の ココがすごい!

学習意欲の湧く
面白い取り組みが
いっぱい!

あいたに なつこ
藍谷 夏子さん
医学部 保健学科 3年

米子
キャンパス

鳥取
キャンパス

平日は23時まで
開館している
附属図書館が便利!

かわきた なおき
河北 直樹さん
持続性社会創生科学研究科
工学専攻 2年

医学図書館



医学の専門図書がどっさり!

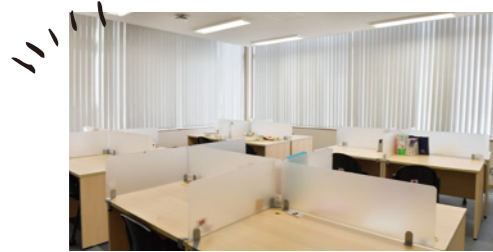
医学に特化した蔵書がズラリ。自主的な学習の動機付けになる医学まんがや入門書も。見て・触れて・確かめながら学習できる「人体・臓器模型」の展示は、全国でも珍しい取り組みです。

中央図書館



つい足が向く多機能な図書館

2階の閲覧室は読書したり静かに自習できる空間。1階のラーニングcommonsは談笑&軽食OK。プレゼン練習できるグループ学習室もあり、中央図書館は学生人気No.1!



集中できる国家試験対策自習室

医学部には、定期試験前になると混雑する図書館や自習室とは別に、国家試験を控えた学生たち専用の自習室が各学科にあります。集中できる空間があります。



自然いっぱいのキャンパス

キャンパス内は緑豊か。季節ごとに桜やアジサイなどの花も咲きます。また、近くにはあの有名な「鳥取砂丘」が。年1回、大学で除草ボランティアを行っているんです。

受験生の皆さん、鳥大生の一日はいかがでしたか?

有意義な学生生活を送れる鳥取大学へ、ぜひおいでください。待ってまーす!!

平成31年度入試より/ インターネット出願になります!

入試情報

鳥取大学のインターネット出願なら

書類の
取り寄せ不要

入カミス
がなくなる

24時間
支払いOK

詳しくは、鳥取大学インターネット出願サイトをご覧ください

<https://e-apply.jp/e/tottori-u/>

来年の春、
会いましょう!

講義紹介 工学部

大勢の前でのプレゼンは
緊張の連続!



土木・社会経営プロジェクト

「土木」と「社会経営」に分かれ、地域が抱える問題について少人数グループで現地取材やデータ収集・分析を行い、課題解決のための方策を考え提案する授業です。地域の方とコミュニケーションをとる、グループ内で役割分担をする、制限時間内にまとめ成果発表を行うなど、社会人になってから役に立つ経験ができます。

いわき ひろあき とくら こうたろう
岩城 宏明 **都倉 幸太郎**
工学部 社会システム土木系学科 3年

Check Point 7

F1顔負け!?「学生フォーミュラ」

「学生フォーミュラ」とは、車やものづくりが好きな有志が集まって小型レーシングカーを一から開発・製作し、ものづくりの厳しさ、面白さを実感する活動です。今年も全日本学生フォーミュラ大会に出場しました!



試験走行に向けて
パーツ組み立て中!



おちあい ゆうた
落合 勇太さん
工学部
機械物理系学科 3年

午後も
がんばっていきましょう!



講義終了! /



18:00 (鳥取)
18:10 (米子)

After School

放課後はサークル活動でイキイキ!

体育系・文化系ともにたくさんのサークルがあります。日本海に面した鳥取ならではの、サーフィン部やライフセービングクラブなども。学年・学部を越えた交流はキャンパスライフを何倍にも充実させてくれます。



ギターアンサンブル部



サーフィン部



仲間と過ごす時間は
サイコーです!

体育館

武道場

プール

サッカー・ラグビー場

うえむら こうじ
上村 公志さん
農学部
生物資源環境学科 4年

Check Point 8

就活ならキャリアセンター

「就職活動って何をすればいいの?」と悩んだらキャリアセンターへ。エントリーシートの書き方や面接練習などを相談員さんが丁寧に個別指導してくれるんです(予約制)。就活本、関連DVDも借りられます。



インターンシップも
ここに相談!

ぬまた みさき
沼田 美咲さん
地域学部 地域学科
人間形成コース 1年





地域産品の 農作業に目を向け、 機械化による 作業能率アップを支援

コメの過剰生産にともない、各地では付加価値を求めて野菜や果樹など特産品となる地域作物の栽培に期待が寄せられています。しかし、地域産品は産地によって栽培の方式や環境が異なり機械化が遅れているため、農作業を手作業に頼ることが多く労働負担が大きいのが実情です。私たちは、そうした地域作物の機械化に目を向け、このほど「芝収穫機」を開発しました。

のなみ かずよし
野波 和好 准教授
農学部附属フィールドサイエンスセンター

略歴
1987年 鳥取大学大学院農学研究科 修了
1987年 三菱農機株式会社(現三菱マヒンドラ農機株式会社)入社
1994年 鳥取大学大学院連合農学研究科 修了 博士(農学)
2013年 三菱農機株式会社作業機械事業部グループ主査(開発研究担当部長)
2013年 現職
専門 農業機械学
趣味 音楽/旅行



産官学の連携で、 特産芝の収穫機を開発

芝の生産において鳥取県は茨城県に次いで全国第2位の生産量を誇る特産品になっています。県内の主産地は中部に位置する琴浦町や西部の大山町などで、もともとは水田だったところを転作作物として芝の圃場に切り替えた経緯があります。

がる、より使いやすい機械の提供を指してきました。

作業過程の検証を重ねながら、 機能性をレベルアップし実用化

芝の収穫には、大きく5つの作業過程があります。①筋切り、②切り出し、③選別・積み重ね(束にする)、④結束、⑤搬出です。

圃場に育った芝を規定の幅に切れ目を入れるのが「筋切り」ですが、これはトラクターと専用作業機で行います。その後の「切り出し(圃場から芝を規定の長さに切りながら、地面から切りはがすこと)」も小型の専用機で行っていますが「選別・積み重ね」「結束」「搬出」では、ほとんどが手作業です。切り取った芝を拾い集めて1束に積み重ね、それを結束したり運搬するときは中腰での作業が多いのですが、1束の芝は重さ12〜15kgにもなりますので本当に重労働になります。作業従事者も高齢化して



写真1 収穫機1号機の拾い上げ機構



写真2 収穫機2号機の公開



写真3 収穫機3号機の実用試験

おり、機械化は大きな課題だったのです。これら一連の収穫作業を1台の機械でできないかと考案した最初の試作機ができたのは3年前(平成27年)でした。

いちばんの課題だったのが切った芝の拾い上げです。切った芝と地面の間にはほとんど隙間が無く、ここに差し込みながら円滑に持ち上げる機構が必要なのですが、過去の開発ではここがネックになっていました。この部分について学生と一緒に試行錯誤を行い、新しい機構を考案しました(写真1)。この機構ができあがったことで切った芝が機械の上に自動的に上がってくるようになり、選別・積み重ねと結束の作業を立ったままの姿勢で行うことができるようになりました。

民間企業に加わっていただいているから、芝を自動的に結束する芝結束機を搭載した2号機を製作しました(写真2)。2号機製作にあたっては、芝生産組合の方に価格や機能などの要望をまとめていただき、関係者で議論をして仕様を

「稲を植えても収益が上がらない」「水田として利用するには農地環境が悪い」など、さまざまな理由があったのかもしれませんが、その栽培と収穫作業には人員の手作業に頼ることが多く、栽培農家さんや作業従事者のみなさんは大変な思いをされています。琴浦町では産地の維持・生産拡大のため早くから作業の省力化につながる「芝結束機」の開発などを

まとめました。その後、実際の圃場での実用試験を繰り返し、改良を重ね、安定した作業ができるようになりました。さらに3号機を製作しました(写真3)。

結束後に一度地面に降ろして、搬出時に再び運搬車へ持ち上げるということに疑問を感じ、収穫機の後方に運搬車を連結したものです。これにより、結束した芝をそのまま運搬車へ積み込めるようにしました。今では最新機3機が現場で実用されています。現地報告会のときに芝農家さんから「芝を始めてから50年になるが、こんな機械が見られるなんて」と、とても感動されたのには私も胸を打たれました。本当に芝づくりにご苦労されたのだと思います。

現場に即した 作業体系を踏まえての コンセプトづくりが大切

「農業の機械化・省力化」が言われて久しいのですが、稲刈りのコンバインは五十年余の年月の経験を経て、今のテクノロジーになっています。積年の試行錯誤が宿っていますが、さてコメや大豆など基幹品目以外の地域特産物の農作業において、それに適った機器の進歩はどうでしょうか？

一連の農作業の中の部分的なところを抽出して「機械化」をしても、それがト

関係機関と進めておられました。一方で、私たちの研究室でも独自に小型の芝収穫機の開発に取り組んでいた経緯があり、同町の地方創生事業(平成28年度)の一環として民間企業も加わり産官学連携の収穫機開発を進めることになりました。

改めて産地の現状や意向を踏まえ、とくに負担が大きい作業過程を綿密に調べて、少しでも省力化、軽労化につな

タルな作業過程を見通すと逆に人的労力や作業時間の増大につながることもあります。ですから、全体の作業体系を踏まえたコンセプトづくりがとても重要になります。現在使用

されている農業機械のほとんどは、実際の農作業から生まれたアイデアがもたなっています。それを原点にして思うとき、私たちは農家さんとのつながりを大切に、現場の作業をよく見て知った上で、機械化をコーディネートしていくことが、とても大切だと思っています。

芝収穫機は今後、さらに改良を重ねていく必要があるでしょう。鳥取県には芝の他にも砂丘ラッキョウや長いもなど、さまざまな特産品があります。それらにも注目して農作業の効率アップ、省力化に貢献できる研究・開発を進めていきたいと思います。





医学部医学科社会医学講座
法医学分野

担当教員 飯野 守男 教授

**病気を治すだけが医者じゃない！
研究で人の命を救う**

**法医学者を志し鳥大医学部に入学
AI研究の第一人者へ**

日本国内の法医解剖医は約150人で、鳥取県を含む県内の地方自治体には1人しか法医解剖医がいないのが現状です。鳥取県警が扱った異状遺体は昨年1年間で876体。このうち解剖されたのは71体とその1割未満にとどまり、多くは解剖されずに、遺体の外側だけで判断する外表検査しか行われていませんでした。

私の父親は鳥大医学部の解剖学者で、「病気を治すだけが医者の仕事ではない」と聞かされて育ちました。私も「患者を

診ない医師」である法医学者を志し、鳥大医学部に入学。麻酔科で臨床研修した後、大阪大学大学院の法医学教室に入りましたが、手術を受ける患者さんは必ず何らかの画像診断を受けるのに、法医学ではそれがなく、いきなり解剖することに違和感を覚え、「法医学にも画像診断が必要」だと考えるようになりました。

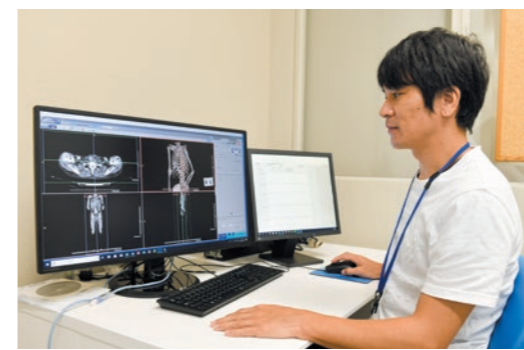
京都大学に移ってから、遺体を解剖前にX線撮影するスタイルを取り入れ、スイス、オーストラリアに留学して本格的な法医画像診断を学び、AI研究に取り組んできました。

3年前に鳥大医学部に戻り、現在は中留准教授と共に院生3人を指導しています。院生たちは、救急救命センターの医師として勤めながら法医学者を志したり、歯科医師として勤めながらAIによる個人識別を研究したりと、それぞれの目標に向けて研鑽を積んでいます。この春にはブータン王国からの留学生を受け入れ、法医学の知識はもろろんのこと、日本の文化に触れることも勧めています。

解剖して死因究明することで、防げる死の予防につながったり、遺族が気持ちを整理できたりと、法医学は非常に大きな役割を担っています。医学部には法医学やほかの基礎研究もあると広く知ってもらい、将来、研究者になる学生を育てていきたいです。

学生たちに法医学の意義を伝える
研究者になる学生を育てたい

目の前の死と向き合い、真実を解明して明日へと生かす



アンナチュラル・デス(異状死)一。不慮の事件・事故で身近な人を亡くしたり、理由が分からずに命が失われたりした時、その死因を明らかにすることは、事件の真相究明や残された人たちが気持ちを整理するためにとっても重要なことだ。鳥取県内唯一の法医解剖医である飯野守男教授率いる法医学分野は、コンピューター断層撮影(CT)を活用した「死亡時画像診断(Ai)」による死因解明と、中留真人准教授が研究するDNAによる法医遺伝学的な個人識別法の開発を2本柱に、法医解剖を通して死の真実を浮き彫りにし、明日へと生かすために走り続けている。

法医学は警察との関わりが深く、講義で警察官の話の聞いたり、科学捜査研究所に見学に行ったりすることも。法医解剖室の大掃除は、ボランティアの警察官と一緒に汗を流している。研究室内の雰囲気も明るい。学生の論文が学会誌に受理された時には、パーティーを開いてみんなで祝い。また、感染制御学講座と社会医学講座が合同で研究報告会を行い、多分野との連携も図っている。

「死因を解明することで、生きている人たちの命を守りたい」。大きな使命感と責任感を胸に、今日も研究に邁進する。

法医学とは

法律上問題となる医学的事項に対して、医学の知識を応用し、その解決に役立てる医学の一分野。基礎法医学と応用法医学に分けられ、応用法医学の司法上の応用として、生体・死体の検査、痕跡検査、現場検査などがある。鳥大医学部は県内唯一の法医鑑定機関で、事件・事故で亡くなった遺体を解剖して死因を解明している。

いいの もりお
飯野 守男 教授
医学部医学科社会医学講座



**死亡時画像診断
(Ai)を導入しました!**



遺体のCT画像などを調べて死因究明を行うAiを今年4月、鳥取県で初めて導入した。解剖と併用することで詳細な死因究明につながるほか、解剖しなくても死因が特定できるケースもあり、大規模災害時の身元確認にも有効という。

Ai導入後、CT撮影のみも含めて法医解剖室に持ち込まれる遺体の数は昨年の2倍ペースで増えているといい、飯野教授は「Ai導入により、法医学者の目に触れる事例を相当に増やすことができ、犯罪死の見逃し防止にもつながる」と話す。地域の産業振興や学生の教育など、多方面にも活用していく方針だ。



ペースメーカー(3D-CT)
大規模災害時にはこのような所見が身元確認につながる。

法医学を学ぶ院生に聞く!

ダワ・ザンポ
Dawa Zangpoさん
大学院医学系研究科
医学専攻 社会環境情報医学 1年



ずっと日本に来ることが夢だったので、共通の知人を通じて飯野教授に連絡し、ブータン政府の国費留学生として鳥取にやってきました。今は日本語の習得に励んでいます。これから4年間で、法医解剖の技術やAiによる死因究明、法制度などを学ぶ予定です。一人前の法医学者になってブータン王国の法医学を担っていきたいです。

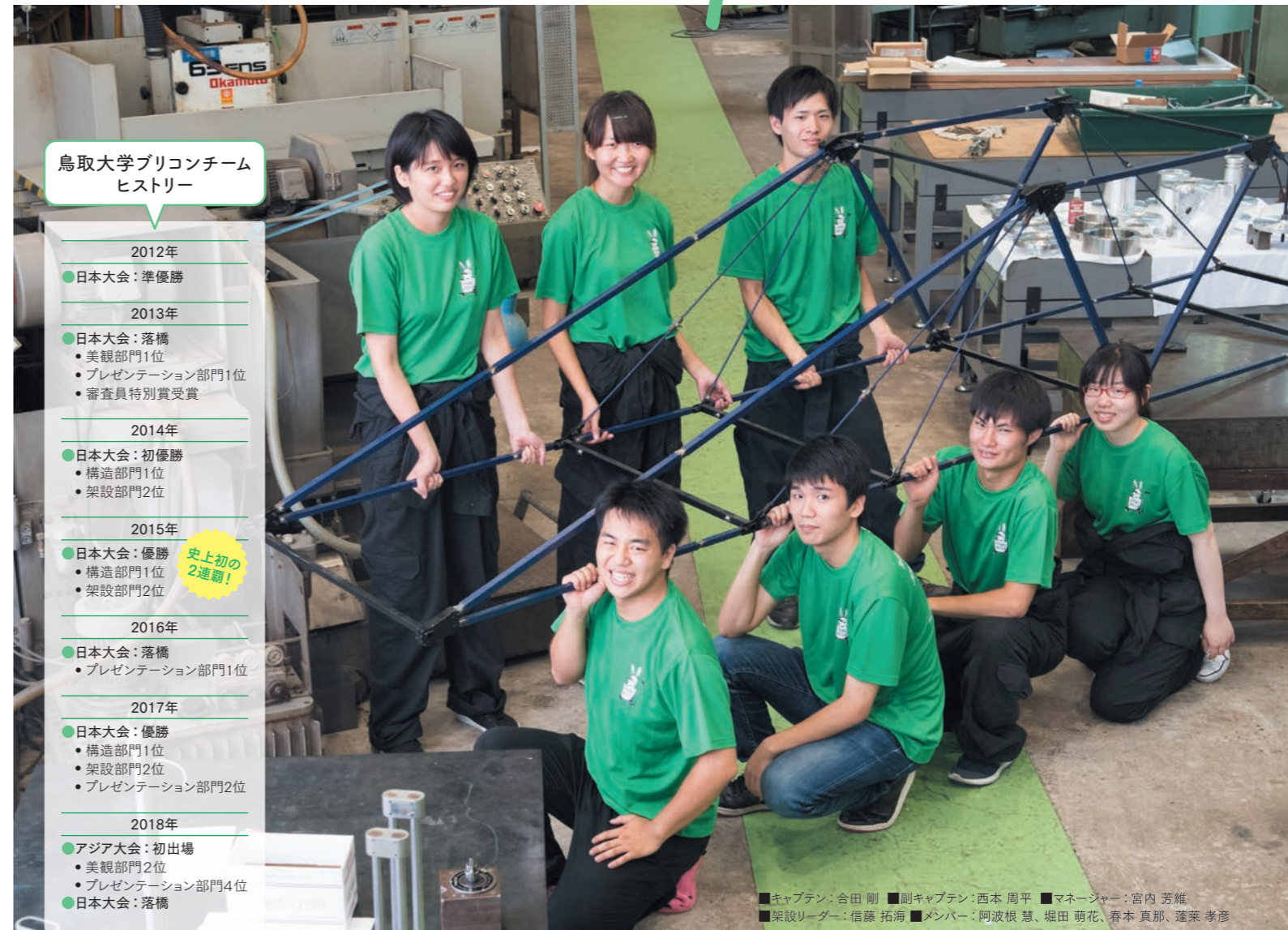
祖国の未来のために! ブータン王国初の法医解剖医を目指す

今年4月から法医学分野で学んでいるブータン王国からの留学生です。ブータン王国は「幸せの国」として知られていますが、経済発展とともに犯罪数も増加しています。現在、国内に法医学者は1人しかおらず、さらに文化的な理由から全く解剖が行われていません。私は総合診療医として国立病院に勤めていましたが、医師として社会に貢献したいと法医学者を志すことを決めました。

CHECK THIS OUT!

鳥大生の活躍を紹介します

トリカツ!



鳥取大学ブリコンチーム ヒストリー

- 2012年
 - 日本大会：準優勝
- 2013年
 - 日本大会：落橋
 - 美観部門1位
 - プレゼンテーション部門1位
 - 審査員特別賞受賞
- 2014年
 - 日本大会：初優勝
 - 構造部門1位
 - 架設部門2位
- 2015年
 - 日本大会：優勝
 - 構造部門1位
 - 架設部門2位
 - 史上初の2連覇!
- 2016年
 - 日本大会：落橋
 - プレゼンテーション部門1位
- 2017年
 - 日本大会：優勝
 - 構造部門1位
 - 架設部門2位
 - プレゼンテーション部門2位
- 2018年
 - アジア大会：初出場
 - 美観部門2位
 - プレゼンテーション部門4位
 - 日本大会：落橋

■キャプテン：合田 剛 ■副キャプテン：西本 周平 ■マネージャー：宮内 芳雄
■架設リーダー：信藤 拓海 ■メンバー：阿波根 慧、堀田 明花、春本 真那、蓬萊 孝彦

日本一の技術と強さ、鳥大ブリコンチーム!

ものづくりの楽しさを体験

全国の大学・高専の学生が橋梁の設計、製作、架設を行い、強度や組み立ての速さ、美しさなどを競うJapan Steel Bridge Competition(通称ブリコン)。2010年から始まったブリコンで最多の優勝回数を誇るのが、鳥取大学の学生チームだ。常連優勝校の座にあらをかず、勝つこと・新しいものを生み出すことに、貪欲に挑戦し続ける。

ブリコンは、長さ約4メートルの橋の模型製作を通して、ものづくりの真の楽しさを体験し、技術や知識を習得するとともに、人脈形成、問題解決の技量を養うコンペティションで、毎年、全国から約20チームがエントリーしている。京都大学や九州大学、大阪市立大学なども名を連ねる中、鳥大は工学部構造工学研究室(谷口朋代教授)のメンバーが中心となって12年の第3回大会から参加。初出場で総合準優勝という成績を収め、14年に初の総合優勝に輝くと、15年も総合優勝してブリコン史上初の2連覇を達成。翌年はあと少しのところまで落橋してしまったが、17年には3度目の総合優勝を果たした。

ブリコン初の3連覇に向けて

2連覇した時はアーチ形式で出場。13年と16年は、三角形を組み合わせたトラス

形式で挑み、落橋という結果に終わった。「アーチ形式で優勝しても進歩はない」と、17年は取ってトラス形式での出場を決め、「軽く・速く・強く」をコンセプトに試行錯誤を繰り返して、その年の大会の荷重条件に合わせて、2つ目の橋台を中心にやじるべのようにバランスを取る「ヤジロ橋」を製作。見事、頂点に返り咲いた。

現在のチームは、大学院生2人、4年生3人、3年生3人の計8人。ルール上、教授に質問や指示を仰ぐことはできず、ルールが出てから大会までの約4カ月間で、それぞれの授業に出席しながら、学生たちだけでスケジュール管理から設計、パーツの作成まで行わなければならない。キャプテンの合田剛さん(4年)は「作業分担や人の割り振りをよく考え、効率よく作業が終わるように工夫しています」と話す。

また、今年から本物の橋づくりの現場に出向き、作業を見学したり、アドバイスを求めたりと、地域とのつながりを強化。自分たちの活動を広報して資金を募り、現在、県内10社のスポンサー企業を獲得している。合田さんは「目標はブリコン初の3連覇。授業で得た知識を応用することで、より土木への関心が深まりました。知識や技術、スケジュール管理の方法などを先輩につないで、鳥大ブリコンチームとして成長し続けたい」と先を見据えている。

※本記事は、今年の9月に開催された国内大会の前に行った取材を元に原稿を作成しています。



2 設計

大会ルールに即して橋梁を設計していく。全体の形を定めて、部材寸法などの詳細も決めていく。



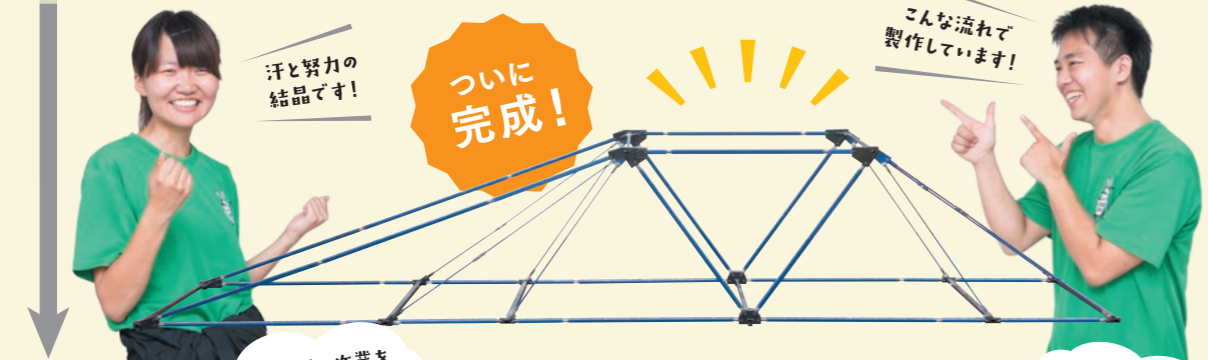
1 ミーティング

たくさんの意見が飛び交います!

設計やスケジュール管理などについて話し合う。週1回はミーティングを行い、情報共有する。

橋梁模型ができるまで

~強く、美しく、早く組み立てる~



汗と努力の結晶です!

ついに完成!

こんな流れで製作しています!



3 製図作業

ここまでの作業を何度も繰り返し...

設計を製図に起こす作業。CADと手書きの両方を用いて、実際に組み立てられるかなどを確認。



4 パーツ製作

大学内の工場で学生自らが鋼材の切断や溶接などを行い、製図に基づいてパーツを製作していく。



5 組み立て

当日まで練習を重ねます

パーツが完成したら、少人数で安全に速く架設できることを目標に、大会に向けて組み立ての練習。

Asia Steel Bridge Competition 2018に参加しました!

世界の壁の高さを実感! 目指すはアジアNo.1

鳥大は今年、初参加で15チーム中7位に終わった。出場メンバーは「鳥大が4分かかる架設を、タイのチームは1分40秒で終えた」と世界のレベルの高さを思い知ったといい、来年に向けて意欲を燃やしている。



鳥大ブリコンチーム
WEBサイト
<http://www.cv.tottori-u.ac.jp/str/bricom/index.html>

※写真の橋梁は、2017年ブリコン出場時のものです。

新任教員紹介

MEET OUR NEW TEACHERS

私は平成30年4月に鳥取大学に参りました。鳥取歴は前職から数えて3年半ほどです。出身の岡山県とは異なる風土を、季節ごとに家族で楽しんでみながら過ごしています。鳥取暮らしで特に気に入っていることは、鳥取駅近くに湧く温泉を日常的に気軽に楽しめることです。考え事を整理したいときに利用することが多いです。

私の所属する地域価値創造研究教育機構は、平成29年10月に新設されました。鳥取大学は「知と実践の融合」を基本理念としていますが、従来に増して地域に根ざした大学となるための中核組織として位置づけられています。地域連携PBL推進室では、地域課題に対して学生グループが主体的に行う課題解決学習（problem/project based learning, PBL）な

地域課題を発見し解決する力を備えた人材育成に向けた取り組みを推進しています。

地域課題解決に向けては、地域が抱える問題に対して適切に焦点を絞ること、人や地域資源を活かすプロジェクトデザインをすることが重要だと思っています。また、地域の課題に直面することや色々な人と接する中で、変化する状況に対応しながら臨機応変に前に進む能力が大事です。学生の皆さんには、まず小さなことから実践にチャレンジしてもらいたいことを期待していますし、一緒にプロジェクトに取り組む中で私自身も成長していきたいと思っています。正門からすぐのコミュニケーション・デザイン・ラボ（CDL）に在室することが多いですので、見かけた声をかけてください。

戦略的なプロジェクトをデザインし、実践する



鳥取大学着任日：2018年4月1日

地域価値創造研究教育機構 地域連携PBL推進室 室長

なりきよ ひとし
成清 仁士 准教授

略歴
2003年 広島大学工学部第四類(建設系)建築学課程卒業
2005年 同大学院工学研究科博士課程前期修了
2010年 同大学院工学研究科博士課程後期単位取得後退学 博士(工学)
2010年 安田女子大学家政学部生活デザイン学科 助手
2015年 鳥取市中心市街地活性化協議会 タウンマネージャー 現職
2018年 現職

専門 建築史・意匠学／都市史／まちづくり
趣味 まち歩き／温泉／図書館



鳥取大学着任日：2018年4月

乾燥地研究センター 農業生産部門

いしい たかよし
石井 孝佳 講師

略歴
2010年 鳥取大学大学院農学研究科修士課程修了
2013年 同大学院連合農学研究科乾燥地科学専攻修了 博士(農学)
2013年 同大学乾燥地研究センター 博士研究員
2013年 Leibniz Institute of Plant Genetics and Crop Plant Research(IPK)(ドイツ) 博士研究員 現職

専門 植物細胞遺伝学／育種学
趣味 釣り／散歩

あらたな農学の可能性を目指してー先輩からのメッセージー

平成30年4月1日、鳥取大学乾燥地研究センターに講師として着任しました。私は鳥取大学農学部計9年間、学部から博士を取得するまでお世話になりました。その後、ドイツのIPKという研究所で5年間、博士研究員として働きました。鳥取大学在学中にインド、中国、スーダン、パキスタン、韓国の人達と共に同じ研究室で過ごした経験は、IPKでの私の成功に欠かせないものでした。

私の専門分野は植物細胞遺伝学です。顕微鏡を使い、染色体という生物の遺伝子の入った構造体を調べる研究です。私は、植物を人為的に交配した雑種細胞で起こる染色体脱落現象(受精卵が成長する過程で、特定の染色体がなくなる現象)を研究しています。例えば、パンコムギを母親に、

トウモロコシを父親にすると、全く異なる種であるにも関わらず、雑種の子供ができます。しかし、トウモロコシの染色体は子供の成長過程で完全に消えます。染色体脱落現象を自在に制御できれば、これまでない農業に有用な植物の作出が可能になると考えています。

農学部の学生の皆さんには農業に熱い情熱を持った人を見受けられます。情熱なくして、何かを成し遂げることは不可能です。学生の皆さんには失敗を恐れず、前向きに挑戦し、解決策を見つけて術を学んで欲しいです。私も最新の技術を取り入れながら、持続可能な農業生産に役立つ、細胞遺伝学の新たな領域を、これから出会うであろうあなた達と一緒に、作っていきたくと考えています。

学びを支える

SUPPORT FOR LEARNING

独自の海外留学プログラムを構築し、世界で活躍できる「グローバル人材」の育成に力を注いでいます。



教育支援・国際交流推進機構 国際交流センター

Parada Jaco Roxana Yanira
パダハコロクサナジャコラ 特命准教授

略歴
1994年 エル・サルヴァドル国立農林業技術センター
2008年 鳥取大学大学院連合農学研究科博士課程修了
2008年 同研究科 GCOEプロジェクト研究員
2013年 日本学術振興会 外国人特別研究員 (鳥根大学生物資源科学部)
2015年 鳥取大学産学・地域連携推進機構 プロジェクト研究員 現職
2017年 現職

専門 グローバル教育
趣味 エクササイズ／ダンス／ヨガ

教育支援・国際交流推進機構 国際交流センター

豊富なプランで留学をサポート

本学ではオリジナルの留学プログラムを用意し、学生の皆さんの海外留学へのチャレンジを応援しています。それが「鳥取大学Global Gateway Program」(以下、GGP)です。「海外実践」(語学・多文化共生力)「語学」と大きく3つの内容に分かれており、語学力向上はもちろん、渡航した国の歴史文化に触れ多文化共生への理解を深めたり、フィールドに出て実践的な学びに挑戦するなど、目的に応じて選択することができます。実施期間は主に春・夏休み中、渡航先はメキシコ、ウガンダ、マレーシア、台湾、アメリカ、オーストラリアなどさまざまです。

語学力+実践力でみるみる成長

GGPが目指すのは、語学力向上だけではなく、自分とは異なる国・文化を持つ

つ人たちと一緒に課題解決に当たることができる「グローバルな実践力」を伸ばすこと。そのためには、世界各国の文化を理解する、地球規模の問題について考える自分の意見を持つ、そしてそれを発信するといったスキルが必要です。ですからGGPには、そうした経験が積めるような仕掛けを盛り込んでいます。

例えばマレーシア・マラヤ大学英語研修では、鳥大生たちが日本の「茶の湯文化」や鳥取地域で伝統的なダンス「しゃんしゃん傘踊り」について現地学生に説明し、一緒に体験するというプログラムを設けています。こうして積極的に発信・交流を図ることに、より実践力を養っていくのです。

初めてだと気後れしがちな海外留学ですが、一度経験すると「もっとステップアップしたい」とリピートする学生が数多くいます。ですからぜひ1年生のうちから挑戦し、「進化する自分」を感じてほしいと願っています。

就活日記

やまもと しょうた 工学部社会システム土木系学科
山本 将太さん 2019年3月卒業予定



内定先：株式会社長大

私の就活は、3年の夏のインターンシップから始めました。約1カ月間経験し、社会を知る、自分自身を知る良い機会でした。キャリアセンターもできるだけ活用し、色々な視点からのアドバイスに気づかされるが多かったです。私は、以下の2つの対策を早めに実行しました。

1つ目は「自己分析」をすることです。そうする事によってさまざまな企業のエントリーシートの質問をスムーズに応えることができます。また、自己分析をする事で次の面接に対する答えにも繋がります。

2つ目は「業界・企業研究」です。早めに企業を知り、志望の企業を絞る事で3月になってから無駄に多くの合同説明会に行くことを防げます。興味のある企業が来ているならば行くべきだと思いますが、数多く行き、就職活動をしている雰囲気だけ味わうのは時間の無駄です。また同業他社の雰囲気を知るために行くなら、鳥取大学の合同企業説明会だけでも十分に感じ取れます。

就職活動は辛い事ではありません。今まで頑張ってきた自分をアピールできる場です。今までの自分を振り返り、どんどん自分をアピールし、自分らしさを出して頑張ってください。

いのうえ なほ
井上 菜穂 准教授
教育支援・国際交流推進機構 学生支援センター 学生相談部門

大学生活色々あります

今夏の猛暑は観測記録を各地で更新するなど、命に関わる暑さに苦しみました。しかし私たちが「暑い」と感じている以上にもっとその暑さに苦しんでいる学生たちがいるをご存知でしょうか。それは発達障害をもつ学生たちです。発達障害の方には非常に高い確率で「感覚の過敏性」を抱えており、他の方たちと異なる感覚の感じ方をすることがあります。例えば、聴覚過敏で特定の音が苦手、触覚過敏で特定の肌触りの服は絶対に着ることができない、などの症状がみられることがあります。その中の症状のひとつに「暑さが苦手」な方が多くいます。私たちが「暑い」と思っている基準では考えられないくらい暑さを感じて苦しんでいます。わがままと誤解されてしまうこともよくありますが、そうではありません。感覚過敏は外見では分からないため、周囲にとっても理解されにくい症状です。大学はさまざまな個性をもつ学生が集まっている場です。まずはそのことを理解することがどの学生にとっても過ごしやすいうちづくりの第一歩につながると考えています。

ロシア・太平洋国立医科大学の学生が 本学医学部を訪問

2018.8.17~25



8月17日から25日の間、本学医学部と部局間協定を締結している太平洋国立医科大学(ウラジオストク)から、医師を目指す学生4名が来学し、さまざまな交流を行いました。

9日間の滞在中、手術室の最先端設備、手術用ロボット「ダヴィンチ」並びにドクターヘリ、ドクターカーなど、本院が保有する施設や設備を見学したほか、シミュレーションセンターでの実習、希望する診療科での臨床や研究見学などを通じて、本学部の医師や学生と太平洋国立医科大学の学生との交流を深めました。

このたびの訪問により、日本とロシアの医療制度や文化について理解を深め、グローバル社会に求められる人材の育成に繋がることが期待されます。

鳥取大学留学生が 「鳥取しゃんしゃん祭一斉傘踊り」に参加

2018.8.14



8月14日、第54回鳥取しゃんしゃん祭一斉傘踊りに「鳥取大学International踊り子隊」として、38名(留学生22名、日本人学生12名、教職員4名)の連を作り参加しました。

今年はG-frenz(国際交流活動のための学生チーム)に加え、トビタテ! 留学JAPANで海外に留学した学生や、これからマレーシア英語研修に参加する学生など、多くの日本人学生と留学生が協力し助け合いながら、6月から週2回(全16回)の練習を重ねて臨みました。当日は、気温38度の猛暑の中で行われましたが、沿道からの温かい声援を受けながら2時間、華麗な傘踊りを披露しました。留学生、日本人学生ともに、鳥取の伝統活動を体験する貴重な機会であり、この経験が今後世界へ発信されていくことを期待しています。

2018年度 JICA課題別研修がスタート

2018.7.30



今年度で30回目となるJICA課題別研修「乾燥地における持続的農業のための土地・水資源の適正管理(A)」がスタートしました。本研修では約3カ月間、鳥取大学及び鳥取県内外の各機関でさまざまな技術研修を実施します。

今年度は、アフガニスタン、イラク、ヨルダン、ケニア、パレスチナ、スーダンの6カ国から7名の研修員を迎え、本学広報センターにて開講式を行いました。豊島学長から、「本研修では、研修員の皆さんが土地資源・水資源の適正管理に必要な知識や技能を身につけ、母国で普及させるために、実際に目で見て多くのことを学んでください」と激励の言葉がありました。

なお、今年度は英語で実施する本研修のほか、11月にロシア語コースも開講する予定です。



WHAT'S NEW?



大学の動き

在学生の活躍や大学の取り組みなど、
鳥取大学の最新情報をご紹介します。

岐阜大学・鳥取大学 大学院共同獣医学研究科の設置について

2018.9.14



岐阜大学・鳥取大学では、大学院共同獣医学研究科共同獣医学専攻の設置について、大学設置・学校法人審議会の審議を経て、8月28日付で設置することが認められました。今後は、来年4月の開設に向けて引き続き準備を進めてまいります。

9月14日には本学において記者会見を開催し、豊島学長の挨拶の後、太田共同獣医学科長が設置の概要を説明しました。同研究科では、生態系の健全性を含む動物や人の健康に関する幅広い分野の先端的研究を推進し、獣医学の高度化に貢献できる獣医学教育者および研究者を養成するとともに、高度な知識と技術、専門性と倫理観を有し、国際社会または地域社会における指導的役割を果たす獣医学専門家を育成します。

企画展「鳥取地震75年パネル展」を開催

2018.9.4~28



今年は、1943年(昭和18年)9月10日に発生した鳥取地震から75年になります。これを期に本学工学部附属地域安全工学センターでは、震災を風化させず、防災について考える機会として、9月4日から28日にかけて鳥取地震75年パネル展「中国地域北部の地震活動と近年の被害地震」を企画し、開催しました。

会場の広報センターには、本学で実施した1943年鳥取地震に関する調査研究結果をはじめ、鳥取県内の地震活動、2000年鳥取県西部地震、2016年鳥取県中部の地震など近年の被害地震についてのパネルのほか、被害の記録写真や被災地で見つかった当時のカメラなどを展示し、期間中は県内外から多くの方にご来場いただきました。

「細胞から染色体までの ミクロの世界を覗いてみよう!」を開催

2018.8.5



8月5日、本学大学院医学系研究科の久郷研究室にて、中学生および高校生を対象とした「染色体とは何か」を学ぶ講座「細胞から染色体までのミクロの世界を覗いてみよう!」を開催しました。

本講座は、独立行政法人日本学術振興会が支援する「ひらめき☆ときめきサイエンス」事業によるもので、大学や研究機関で行われている最先端の研究成果を直に見る、聞く、触れることで、科学の面白さや重要性を感じてもらうことを目的として開催しました。

当日は、県内外から中学生および高校生18人が参加。参加者は、細胞の核から染色体を抽出し顕微鏡で観察を行ったほか、染色体標本の作製など手元の細かな作業に集中して取り組むなど、科学に対する面白さを感じてもらえた機会となりました。

平成30年度 鳥取大学正光奨学金授与式を開催

2018.7.30



7月30日に、平成30年度鳥取大学正光奨学金の授与式が開催されました。正光奨学金は、平成20年9月に株式会社正光様からのご寄附を原資として創設した奨学金で、経済的支援を必要とする学業優秀な学生への支援を目的としています。

この日の授与式では、3月に逝去された本奨学金の創設者、丸尾正様(株式会社正光 元会長・創業者)に黙祷を捧げた後、各学部の15名の給付学生のうち、鳥取地区の9名に豊島学長から給付決定通知書を交付しました。続いて、来賓の株式会社正光 代表取締役社長 丸尾将満様から学生へ激励のお言葉をいただきました。学生を代表して、工学部化学バイオ系学科の端本智也さんが、感謝の言葉と研究・勉学に励み目標に向けて頑張りたいとの抱負を述べました。

大学からのお知らせ

INFORMATION

スマホの動きに合わせて動く!

あなたのいる場所が鳥取大学に!



スマホはVR(バーチャルリアリティ)に対応

バーチャル キャンパス もう体験しましたか?

鳥取大学の施設や講義室など、360度パノラマビューにより、スマホ・パソコンからキャンパス内にいるかのような臨場体験ができます!

鳥取キャンパス24カ所、米子キャンパス12カ所 全36カ所掲載!

米子キャンパス



<https://flic360make.vr360-view.com/tour/f07fda7bc64c177>

鳥取キャンパス



<https://flic360make.vr360-view.com/tour/21b47c4d5fb8ae9>

鳥取大学の をつぶいています!
鳥取大学公式Facebook・twitter

@toririn @tottori_univ

とりりんが大学のイベント情報、学生生活、
キャンパスの様子などを随時発信中!

今回の特集では主に受験生の読者を対象として、鳥取大学に在学する学生たちの意見を取り入れながら、彼らの目線で大学生活の1日の流れを紹介しました。豊かな自然、四季折々の風景、学生たちの賑やかな声：6ページの誌面では紹介できないほどの魅力が、鳥取大学にはたくさんあります。さらに詳しい情報は、鳥取大学が発行している「大学案内」やホームページ、大学紹介動画などと併せてご覧いただければ、より本学のことを知っていただけるかと思えます。そして、ぜひ一度鳥取大学のキャンパスを訪れて、本号に掲載した以上の本学の魅力を、その目と耳で直に感じてみてください。教職員、在学生一同、皆様とお会いできる日を楽しみにしております。

また、鳥取大学では「風紋」をはじめ様々な媒体を利用して、本学の教育・研究・社会貢献など、情報発信を行っております。アンケート等でいただいた皆様の声を、今後の本学の広報活動にも生かして参りますので、ご意見やご要望をお寄せいただけますと幸いです。

(M・K)

編集後記

EDITOR'S NOTE

Circle Activities

サッカー部は、毎週火、水、木曜日の18時半から、土曜日は9時から練習しており、日曜日は公式試合や練習試合を行っています。練習は主に鳥取キャンパスのラグビー兼サッカー場で行っています。現在の部員数は選手24名、マネージャー3名の計27名で活動しており、部員のほとんどがサッカー経験者です。

サッカー部には監督やコーチといった指導者がいないため、部員で練習メニューを考えています。海外のサッカーチームがインターネット上に掲載している動画を参考にしながら、定期的に新しい練習メニューを取り入れて実践しています。また練習をする際には、メリハリをつけることと雰囲気



主将兼主務

みぞぶち しょうた
溝淵 章太さん
地域学部
地域文化学科 3年

2年学年代表

もり じゅんじろう
森 淳二郎さん
農学部
生命環境農学科 2年



よくすることを意識しています。中国地方の大学によるリーグ戦や鳥取県内の大会など、サッカー部は年間を通して多くの試合を行っています。大会に出場したときには気持ちの部分で負けないことを心がけており、真剣勝負の中で勝つと努力が報われたようでやりがいを感じます。サッカーの魅力は、様々なスポーツの要素が詰まっているところにあると思います。サッカーは足でボールを扱うスポーツであるため、思い通りのボールタッチができないなどの「不自由さ」を克服していく過程も魅力の一つです。

これからもリーグ戦1部昇格や、来年の春に開催される鳥取県サッカー選手権大会の3連覇を目指して、日々練習に励みたいと思います。

※本記事の取材以降、リーグ戦1部昇格を達成しました。

※サークル紹介記事は学生広報スタッフが担当しました。

サークル紹介 サッカー部



リーダーズ・ボイス

READER'S VOICE

このコーナーでは、前号(58号)の読者アンケートに寄せられた読者の皆さんの声をお伝えします。誌面作りに活かしていきますので、風紋への感想やご意見などをお寄せください。



- 【特集・アイデアの種が花ひらくとき】鳥取大学の発明と実用化】
 - ▼特集の3000のリアルさにびっくりしました。医学部が未来の医師を育てるだけでなく、医療用ロボなどの開発にも携わっている事が良く分かりました。(40代、女性)
 - ▼みんなにしっかり練習してもらい、私達が楽に検査を受けることができたらいなと思えました。(50代、女性)
 - ▼大学で研究・開発された商品が市場に出ているのを知り驚きました。(10代、男性)
- 【社会貢献:「がんウイルス療法」を、臨床に向けて新段階のステージ】
 - ▼地方大学で、貴学のように大きな社会貢献に資する研究が多岐に渡っているのは、たいへん驚きました。医療分野への貢献を期待しています。(50代、女性)
- 【話題の研究室:工学部・生体触媒工学研究室】
 - ▼知らないことだらけのキノコの能力については勿論のこと、教授の学生との関わり方(ご指導の姿)を垣間見ることができて良かったです。(40代、女性)
 - ▼掲載されている学生さんが笑顔で、楽しい大学生活を送っていると感じます。教授との距離

- 【特集・アイデアの種が花ひらくとき】鳥取大学の発明と実用化】
 - ▼卒業後の様子を色々知りたい。活躍の場や成果などを知っておきたい。卒業のことを考える時に参考にしたい。また、活躍を知ることが大学への誇りを感じて欲しい。(40代、女性)
- 【学びを支える:国際交流センター】
 - ▼「留学を経験した学生は、必ずといっていいほど成長します。」の記事が印象に残りました。プログラム等留学について知りたいと思いました。(50代、男性)
 - ▼地域貢献活動など沢山取り上げられており読んでいて楽しいです!(20代、男性)
 - ▼学生の大学生活や部活のことなども、もっと載せて欲しいです。(40代、女性)
 - ▼鳥大ならではの特別な学習など。鳥大ならではの特色を教えてください。(50代、男性)
 - ▼卒業生が全国のどの地域に就職しているのか、非常に関心がある。(50代、女性)
 - ▼工学部の活動をもう少し詳しく知りたいです。若手エンジニアへの期待は大きいので、活躍を期待しています。(50代、男性)
- 【こんなご意見も】
 - ▼卒業後の様子を色々知りたい。活躍の場や成果などを知っておきたい。卒業のことを考える時に参考にしたい。また、活躍を知ることが大学への誇りを感じて欲しい。(40代、女性)



読者アンケートにご協力いただいた方へ
プレゼントが当たる!

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で110名様にプレゼントを進呈いたします。



10名様
とりりん
ぬいぐるみ

100名様
鳥取大学
オリジナル
グッズ

アンケートのご回答はこちらから

プレゼント応募締切 | 1/31(木)

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



大学からのお知らせ

INFORMATION

申込不要
受講料無料

サイエンス・アカデミーのご案内

日時 毎月第2・第4土曜日 10:30~12:00
会場 鳥取大学広報センター 2階(鳥取市湖山町南4-101)
(12/8のみ広報センター 1階 コミュニティ・デザイン・ラボ)
LIVE (●●) 米子市立図書館、倉吉市立図書館、琴浦町図書館、
加藤文太郎記念図書館でライブ中継による聴講ができます。
お問い合わせ 鳥取大学地域価値創造研究教育機構企画管理室
TEL 0857-31-6777

テーマ	健康・医療 ~人生100年の時代、知っておきたい保健、医療のこと~	講師
11/10 2018 土	若者の性の健康を守ろう! ~未来に向けての取り組みの実際~	医学部保健学科 助教 大島 麻美
11/24 2018 土	病いを持つ人々の自己管理と 生活を支える看護を探究する ~人々の認知にはたらきかけ、行動の変化をうながす健康教室~	医学部保健学科 准教授 谷村 千華
12/8 2018 土	更年期世代のセルフケア向上を目指した 健康支援 ~体と心の変化に気づき、リスクに備える~	医学部保健学科 講師 池田 智子
12/22 2018 土	ここまで治る!がんの放射線治療	医学部附属病院放射線治療科 教授 内田 伸恵
1/12 2019 土	がん看護専門看護師の役割と がん看護の実際	医学部附属病院看護部 看護師 中村 梨沙

中期経営計画

NEXT VALUE

~お客さま・地域との共通価値の創造~

期間/2018年4月~2021年3月

未来への変革に挑み、お客さま・地域との共通価値を創造 CSV する銀行

目指す姿

Creating Shared Value

基本方針

1. 地元への積極的な資金供給による地域経済の活性化
2. 本業支援とコンサルティングを通じたお客さま本位の業務運営

とりぎん



鳥取銀行の今をウェブサイトでご覧いただけます!

TOTTORI BANK



青い鳥の銀行です。

鳥取銀行

風紋のバックナンバーは、こちらから

www.tottori-u.ac.jp/fumon

鳥取大学広報誌

検索

鳥取大学に関するお問い合わせ

- 入学試験 0857-31-5061
 - 研究・産官学連携 0857-31-5608
 - 公開講座・社会貢献 0857-31-6777
 - 学生・学生生活 0857-31-5053
 - 授業料納入 0857-31-5029
 - 学生就職支援 0857-31-5456
- その他はホームページ www.tottori-u.ac.jp/ask をご覧ください

編集発行 / 広報委員会 広報誌編集専門委員会

2018年11月発行

山下博樹(委員長・地域学部) 筒井宏樹(地域学部) 西村正広(医学部) 塩崎一郎(工学部)
遠藤常嘉(農学部) 滝波稚子(教育支援・国際交流推進機構) 山岸大輔(研究推進機構) 川村 優(総務企画課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018
[E-メール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <https://www.tottori-u.ac.jp>

*本誌掲載の写真、図版、記事などの無断複写・転載を禁じます。

表紙題字: 住川英明(地域学部)

